様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	外国青年招致事業		実施計画記載頁	353
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
外国語教育の充実・改善を図ると共に、地域レベルの交流推進を図ることを通して諸外国との相互理解を深め、国際化を推進するために、外国語指導助手（ALT）を全ての県立学校へ配置、または訪問する。	49名 配置数				→
実施主体：県	外国語指導助手を全ての県立高等学校に配置				
担当部課【連絡先】：教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：外国青年招致事業

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
県単等	直接実施	213,052	213,377	213,518	215,862	228,663	229,019	県単等	○H30年度： 特別支援学校を含む県立学校75校にて50名のALTを活用し、語学指導等にて生徒のコミュニケーション能力の向上を図った。 ○R元（H31）年度： 特別支援学校を含む県立学校75校にて50名のALTを活用し、語学指導等にて生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式1（主な取組）

活動指標名	配置人数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	49名	49名	49名	49名	50名	49名	100.0%	228,663	順調
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			

活動概要

県立高等学校60校、特別支援学校15校に50名のALTを配置（訪問含む）し、生徒の外国語コミュニケーション能力の向上と地域レベルの国際交流の推進を図った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

ALTの配置により、外国語教育の充実・改善を図ると共に、ALTが地域の行事に参加するなど地域レベルの交流を行ったことにより、諸外国との相互理解を深めることができた。

活動指標の配置計画は、平成30年度の計画値49名に対し実績値50名となり、順調である。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①各校の学校規模や活用方法に適した人数が配置できるよう、配置人数の確保と共に配置計画の改善を行う。 ②各校におけるALTの活用体制の確立のため、活用方法に関する研修等の充実を図る。	①ALTを1名増員をすることが出来た。 ②ALTコーディネーター連絡協議会やALTの面談研修等でそれぞれのALTが各校の状況に応じた活用がされるよう助言した。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・多くの学校でALTの活用が図られた結果、ALTの増員を求める学校が増加している。	〇外部環境の変化 ・「生徒の英語力向上の推進について（通知）」を受けて、「生徒の英語力向上推進プラン」を踏まえた各都道府県の目標設定および達成状況を公表している。沖縄県として、生徒の英語力向上に資する目標設定をし、達成状況は把握している。特にパフォーマンステスト実施回数が目標を達成できていないため、ALTのさらなる活用も含め各種研修で周知している。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・ALTのニーズの高まりに応えられるよう十分な配置人数の確保と、単なる授業時数の増加にならないような活用体制の確立を図る必要がある。	

４　取組の改善案（Action）

・県立中学校へのALTの増員を計画する。

・県PAと教育センター勤務ALTによる学校訪問を新規で実施し、教材や授業映像を集め、教育センターのホームページで公開する計画を進める。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	英検合格推進モデル校の設置（英語立県沖縄推進戦略事業）		実施計画記載頁	353
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
国際的な視野を持ち、国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、県立高等学校（全日制・定時制）の全60校の２年生を対象に英検IBAテストを実施し、生徒の英語力の向上を図るとともに、英検取得率日本一を目指す。		30校 設置校数	→	→	→	→
実施主体	県	英検合格者増に向けたモデル校の設置・検証				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課　【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：英語立県沖縄推進戦略事業

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
県単等	委託	4,299	4,635	6,893	7,165	7,258	7,310	県単等	○H30年度：　県立高校60校、13,613名の２年生を対象に英検IBAテストを実施し、客観的な英語力の把握とその後の英語指導への方向性を示した。 ○R元（H31）年度：　全日・定時制の高校60校の２年生に対し、英検IBAテストを行い、その後、フィードバック分析研修会を開催し、英検合格へつなげていく。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式1（主な取組）

活動指標名	設置校数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	19校	25校	35校	59校	60校	30校	100.0%	7,258	順調
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			

活動概要

平成30年度の新規計画で全日制・定時制の全高校60校の高校2年生に対し、英検IBAテストを実施した。その結果をもとに、フィードバック分析研修会を開催し、各学校で授業改善に繋げた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

計画値30校に対し60校をモデル校とし、順調である。平成30年度の「生徒の英語力（高校3年卒業時に英検準2級程度以上）」の割合が、前年度比+2.0ポイントの46.3%と改善している。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①フィードバック研修会において、データの分析のみならず、前年に実施した学校の取り組み等について情報共有を行う。 ②英語担当者中高連携研修会において、本県の英語検定の取組について説明し、生徒の受験を促す。 ③本県の目標値を明記した「沖縄県英語教育改善プラン」を、今年度の結果と各学校が設定した目標値を踏まえて改定していく。	①琉球大学と協働で教員対象のフィードバック研修会を実施し、各学校での取組等を共有することができた。 ②英語担当者中高連携研修会において、県内中高生の英検取得状況を説明し、各学校で英検受験について強化するように協力依頼をした。 ③小中高大連携委員会において、本県の「沖縄県英語教育改善プラン」を現状を踏まえて、目標管理票等を作成し公開した。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
○内部要因 ・県内の中学校で、難易度の高い準2級、2級の取得者数が増加するにつれて、高校での受験者が減少傾向になると予想される。	○外部環境の変化 ・外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）は、語学のシラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして活用されており、その中で英語検定は「５級～３級＝A1」「準２級＝A2」「２級＝B1」のレベルとなっている。

(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）
・各地区のフィードバック分析研修会で、各学校の英語科教員に対して研修を行う必要がある。 ・英語検定取得に向けて中高が連携し、目標値を設置しているが、その達成に向けてさらなる中高連携が必要である。

４　取組の改善案（Action）

・英語能力判定テストを県立高校60校に実施し、その結果をフィードバック研修会において英語担当教員と共有する。

・中高連携研修会において、中高が連携した学習到達目標の作成や本県中高生の英語検定の取組について説明し、生徒の受験を促す。

・研修会での中高英語教員からの意見をもとに、「沖縄県英語教育改善プラン」の目標値達成の具体的方策を小中高大連携委員会から提案し、各学校に実施を促す。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	小中高大が連携した英語教育研究（英語立県沖縄推進戦略事業）		実施計画記載頁	353
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
外国語活動及び英語の授業において、他の模範となる優れた授業力を備えた教育を発掘し、授業の公開を通じて沖縄県の教員の授業力向上を図るため、英語マイスター教員発掘事業により、英語マイスターの認定等を実施する。		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
		6回 実行委員会の開催数				→
実施主体	県	小中高大連携委員会の開催、英語教育の課題についての研究を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課　【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：英語立県沖縄推進戦略事業

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
県単等	直接実施	645	2,409	3,150	2,559	2,740	3,169	県単等	○H30年度：　優秀英語教員育成のための「英語授業マイスター発掘プロジェクト」にて小学校3名、中学校・高校より各1名の新規英語授業マイスターを認定した。 ○R元（H31）年度：「英語授業マイスター発掘プロジェクト」、「英語能力判定テスト」、「英語担当者中高連携研修会」を前年度同様に実施する。

予算事業名：

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式1（主な取組）

活動指標名	実行委員会の開催数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	6回	6回	5回	4回	8回	6回	100.0%	2,740	順調
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			

活動概要

小・中・高・大の英語教員の連携による授業改善の取組や児童・生徒の英語力向上を目的に、「小中高大連携委員会」を年8回開催した。優秀英語教員育成のための「英語授業マイスター発掘プロジェクト」を実施した。小学校3名、中高から各1名を英語授業マイスターとして認定した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

活動指標の実行委員会の開催数が計画値6回に対して、8回の開催になった。小中高の各校種において、新学習指導要領を踏まえた教育課程が控えており、協議事項が増えた。また、前年度までにマイスターに認定された教員の授業公開や、講話を実施したことで、各校種の外国語活動教員の指導力向上に繋がった。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①平成30年度も高等学校からの応募者が出るように、県立学校長研修会、全6地区での中高連携研修会等で周知する。 ②県内で英語教育に精通した大学教授等1～2名程度増員し、議論に幅を持たせるとともに審議の円滑化を図る。 ③各教育事務所単位で公開授業を実施し、英語教員の指導力向上に繋げる。 ④年6回開催し、新学習指導要領や大学入試改革についても協議する。	①県立学校長研修会において「英語授業マイスター発掘プロジェクト」について周知した結果、高校1校より1名の推薦があった。 ②琉球大学から応用言語学の准教授、また沖縄大学から英語教育の専任講師の2名を新たに委員に参加していただいた。 ③台風の影響で、宮古地区においては公開授業は実施できなかったが中高の英語担当教諭による協議会は実施できた。 ④年8回開催し、新学習指導要領や大学入試改革にともなう英語教育について協議を重ねた。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・委員会には、小中高大の各校種から委員が出席するため開催日が限定され、日程調整が難しい。 ・小中高とも新学習指導要領を踏まえた教育課程を控えており、委員会でも協議事項が増えている。	〇外部環境の変化 ・文部科学省より通知された「生徒の英語力向上推進プラン」の作成にあたっては、県教育委員会において目標値の設定をする必要がある。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・「英語授業マイスター発掘プロジェクト」について、推薦者や応募者の取り組みがスムーズに行えるように、周知を図っていく。 ・小中高大連携委員会の委員として、今年度中学校からの委員を選出することができなかったので、次年度は確実に確保できるように取り組む。 ・新学習指導要領、大学入試改革についても協議していく必要がある。	

４　取組の改善案（Action）

・「英語授業マイスター発掘プロジェクト」の応募者が出るように、引き続き県立学校長研修会、全６地区での中高連携研修会等で周知する。

・現在の委員の先生方には次年度も継続して、委員として努めていただけるように年度内で依頼しておく。中学校の校長については、義務教育課英語担当主事と連携し、確実に委員を確保する。

・前年同様、実行委員会において新学習指導要領や大学入試改革についても協議する。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	国際性に富む人材育成留学事業		実施計画記載頁	351
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生をアメリカ、欧州、アジア、オセアニア、南米諸国へ約１年間派遣する。		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
		100人 留学派遣者数				→
実施主体	県	高校生の国外留学支援				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名	国際性に富む人材育成留学事業								
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	187,047	176,537	194,372	197,368	160,318	175,682	一括交付金（ソフト）	○H30年度： 高校生85名を約１年間、海外へ派遣した。 ○R元（H31）年度： 高校生87名を約１年間、海外へ派遣する。

予算事業名	―								
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式１（主な取組）

活動指標名	留学派遣者数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	99人	93人	94人	99人	85人	100人	80.0%	160,318	概ね順調
活動指標名	―				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	―	―	―	―	―	―			
活動指標名	―				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	―	―	―	―	―	―			

活動概要

前年度までに派遣した派遣生の帰国後、アンケートや報告書のとりまとめを行うと同時に、新たに高校生85名を1年間の派遣期間で国外へ派遣した。その後、平成31年度派遣生の募集・選考を行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

高校生については計画以上に派遣しており、取り組みは順調である。
本派遣を通して、国際性に富む人材育成が図られている。
計画値に達しなかった理由は、H30年度から大学生等の派遣を廃止して、高校生のみの派遣となったためであるが、達成割合からみても概ね順調である。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう促していく。	①3月末に行われる合同報告会（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業と合同）の際に、派遣生代表の留学体験談を発表を介して、短期研修参加者へ長期留学の応募を促した。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・諸外国においては、意思表示することで物事が解決が図られるため、派遣生において新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安がある。	〇外部環境の変化 ・国際情勢の変化等による治安上の問題がある。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・派遣生において新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安があるため、短期研修と連携したステップアップシステムの構築が必要である。	

４　取組の改善案（Action）

・短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう、事前・事後研修等を通して意識の高揚を図る。

・派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	アメリカ高等教育体験研修（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）		実施計画記載頁	348
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、アメリカの州立大学等へ高校生を派遣し、大学生活を体験させる。		50人 派遣数				→
実施主体	県	高校生をアメリカの大学へ派遣し、体験交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課　【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：アメリカ高等教育体験研修（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	38,812	39,408	38,181	35,495	36,675	36,676	一括交付金（ソフト）	○H30年度： アメリカの州立大学へ高校生40人を19日間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させた。 ○R元（H31）年度： アメリカの州立大学へ高校生40人を19日間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させる。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式１（主な取組）

活動指標名	派遣数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	50人	50人	50人	50人	40人	50人	80.0%	36,675	概ね順調
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			

活動概要

アメリカの州立大学へ平成30年7月から8月のうち約3週間、高校生40人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させた。スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめてとしての事後研修を1回実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

派遣者数は計画値50人に対し実績値は40人で進捗状況は概ね順調である。実績値を40人とすることにより、語学力、主体性のより高い生徒を選考し、現地での研修を一層充実させた。
高校生40人をアメリカの州立大学へ派遣し、大学での語学、リーダーシップ研修を実施するとともに、ホストファミリーとの交流も異文化理解につながっている。以上のことから交流の架け橋となる人材育成の基礎作りが図られた。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施する。 ②実践的な英語コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築する。 ③受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。	①外国語講師を活用し、ホームステイや現地研修を想定した英会話能力向上を図るための研修内容に取り組むとともに、前年度派遣生徒や引率教諭を活用した異文化理解を図る研修を実施した。 ②実践的な英語コミュニケーション能力を測る面接試験として、集団討議試験を実施した。 ③受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させた。また、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談があった。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
○内部要因 ・現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。 ・研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。 ・海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。	○外部環境の変化 ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について、前年度派遣生・引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。 ・実践的な英語コミュニケーション能力をはかるため、英作文試験や面接試験において語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要性がある。 ・研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会（グローバル塾）を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。 ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。	

４　取組の改善案（Action）

・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施。
・実践的な英語コミュニケーション能力を測る英作文試験や面接試験内容の構築。
・校内報告会後の生徒アンケートの実施、小中学校と連携したグローバル塾の実施。
・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	海外サイエンス体験短期研修（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）		実施計画記載頁	354
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、海外での研究機関等の訪問、現地高校・大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る。		25人 派遣数	→	→	→	→
実施主体	県	県内高校の生徒を外国の高等学校等へ派遣し、理科系の科目を中心に受講させ				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：海外サイエンス体験短期研修（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	12,773	12,716	12,566	12,795	10,901	14,558	一括交付金（ソフト）	○H30年度： カナダ・ブリティッシュコロンビア州へ11日間、高校生20人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等授業参加などを実施した。 ○R元（H31）年度： オーストラリア・ビクトリア州へ11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを実施する。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式１（主な取組）

活動指標名	派遣数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	25人	25人	25人	25人	20人	25人	80.0%	10,901	概ね順調
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			

活動概要

カナダ・ブリティッシュコロンビア州へH31年２月から３月の11日間、高校生20人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図った。また、研修効果を高めるため、事前、事後研修も行なった。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

派遣数は計画値25名に対し、研修先の受入数変更の理由から今年度は、20名の派遣になった。

研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して、科学分野への興味関心を高め、海外の大学等への進学に対する意欲の喚起が図られたため、進捗状況は概ね順調である。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①現地高等学校等や研究機関における研修内容で深い学びへと繋がるよう、事前研修で実施している派遣生徒を対象とした「サイエンスイマージョン研修」を更に充実させる。 ②派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。	①東大や筑波大大学院博士課程在籍の外国出身学生によるサイエンスイマージョン（英語で学ぶ科学）授業を取り入れるとともに、現地滞在のコーディネーターによる異文化理解の講義を取り入れた。 ②現地での緊急時を含めた対応・体制について、委託業者選定時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時の研修状況や生徒の様子等について委託業者に報告させ状況把握に努めた。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・現地での授業参加等をより高いレベルで推進する為には、派遣生徒全体の語学力及び積極性を高める必要があるとともに、引率教諭については、現地教諭とのコミュニケーションのための語学力が必要となる。また、研修内容にホームステイを含むことから、異文化理解についての研修は今後も実施する必要がある。 ・海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。	〇外部環境の変化 ・研修プログラムを円滑に実施する適正数を保つ必要がある。 ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・派遣生徒を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容の充実を図る必要がある。 ・研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会（グローバル塾）を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。 ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、派遣先の現地事務所等との連携を図る必要がある。	

４　取組の改善案（Action）

・現地高等学校等や研究機関における研修内容で深い学びへと繋がるよう、事前研修において「異文化理解研修」「コミュニケーションスキル研修」「サイエンスイマージョン研修」を更に充実させる。

・校内報告会後に生徒アンケートを実施し、小中学校と連携したグローバル塾の実施を推進する。

・派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	中国教育交流研修（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）		実施計画記載頁	354
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、中国語を学んでいる高校生を中心に異文化体験や現地高校生との交流を通して、中国への更なる興味関心を高める。	20人 派遣数	→	→	→	→
実施主体：県	高校生を中国へ派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を実施				
担当部課【連絡先】：教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：中国教育交流研修（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	7,761	7,735	7,627	7,730	7,716	7,857	一括交付金（ソフト）	○H30年度： 中華人民共和国上海市へ13日間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国への興味関心を高めた。 ○R元（H31）年度： 中華人民共和国上海市へ13日間、高校生20人を派遣し、現地高校での授業参加、文化分野などを実施する。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式１（主な取組）

活動指標名	派遣数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	7,716	順調
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	—	—	—	—			

活動概要

中華人民共和国上海市へH31年３月３日～３月15日の13日間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国文化への興味関心を高めた。また研修効果を高めるため、事前研修及び事後研修を行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

派者数は計画値どおり実施でき順調である。現地高校での授業参加、文化分野での交流を通じ、他の文化を認め受け入れる素地をつくり、将来、中国との架け橋となる人材として国際性を養うことができた。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を実施するとともに、派遣生それぞれの中国語運用能力を把握し、現地研修終了後、事前・現地研修で学んだ語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。 ②受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。	①選考試験において昨年度に引き続き中国語によるﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝを実施し、選考時から語学能力の向上を図るとともに、事前研修においても現地での交流会やﾎｰﾑｽﾃｲ等を想定した語学研修を実施した。その他、沖縄県上海事務所長の講話や上海県人会との交流会を実施した。 ②委託業者と契約締結段階から緊急時対応への課題共有を図り、派遣期間中も報告・連絡・相談を行った。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
○内部要因 ・現地での授業参加や交流等をより高いレベルで推進するため、派遣生徒全体の語学力を高める必要がある。 ・海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。	○外部環境の変化 ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・派遣生徒を対象とした事前研修等において、主体性を高めるリーダー研修および語学や異文化理解に関する研修内容を実施するとともに、現地大学での語学研修の充実を図る必要がある。 ・研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会（グローバル塾）を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。 ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。	

４　取組の改善案（Action）

・事前研修等で、リーダー研修および語学や異文化理解に関する研修を実施し、現地研修後には語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。

・校内報告会後に生徒アンケートを実施し、小中学校と連携したグローバル塾の実施を推進する。

・受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、企画提案書へ明記させ、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト		実施計画記載頁	354
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
沖縄とハワイ双方向において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重できる、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
		25人 派遣数				
		約25人 受入数				
実施主体	県	沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受入による交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト（H25・26は受入・派遣、H27以降は受入のみ）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
県単等	直接実施	2,482	783	416	411	540	631	県単等	○H30年度： ハワイ州高校生25名を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施した。 ○R元（H31）年度： ハワイ州高校生25名を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施する。

予算事業名：沖縄県高校生海外雄飛プログラム（H27以降派遣のみ）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	－	9,985	9,993	9,920	9,964	9,952	一括交付金（ソフト）	○H30年度： ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施した。 ○R元（H31）年度： ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施する。

様式1（主な取組）

活動指標名	受入数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	16人	15人	12人	10人	13人	25人	52.0%	10,504	概ね順調
活動指標名	派遣数				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	25人	25人	25人	25人	25人	25人	100.0%		
活動指標名	―				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	―	―	―	―	―	―			

活動概要

（受入）ハワイ州高校生13名を2週間受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施した。
（派遣）ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

派遣に関しては計画値どおり順調であるが、受入に関しては円高の影響等ため計画値25名の半数ほどとなっており、事業全体では概ね順調となっている。
ハワイでの研修を通して、語学力の向上と異文化理解の促進を図ることができた。また、県内の高校生が、受け入れたハワイの高校生と交流し、相互理解を深めることができた。
ハワイでのツーリズム研修を通して、沖縄のツーリズムを担う人材育成を図ることができた。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①受け入れについては、体験型プログラムの導入により沖縄の文化学習をより充実させるとともに、これまで行ってきた平和資料館等の見学の際に、新たに平和に関する講話を行う。 ②ハワイ沖縄連合会、委託業者、現地スタッフとの連携強化を図り、受入人数の増加を目指す。 ③派遣については、観光産業について座学だけでなく実地研修の充実を図る。	①美ら海水族館見学と本部高等学校生徒と共に行い、地元の高校生の説明により水族館を回ることができ、沖縄の踊りや三線の実演などを体験してもらうことが出来た。平和祈念資料館での見学では、平和に関する講話を英語で聞いた後、生徒達が平和について話し合いを持った。 ②ハワイ沖縄連合会と現地再委託業者との話し合いを重ね、座学研修会場や移動手段の見直し、またツーリズム研修講師を沖縄関係者に変更することにより、プログラムの改善・拡充を行った。 ③派遣について、ポリネシアンカルチャーセンター見学等の実地研修を増やした。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・ハワイ州から来沖する高校生の日本語力に差異がある。 ・観光立県を標榜する本県の観光産業を担う人材を育成を目的の１つとしていることから、関連するプログラムの拡充が必要である。	〇外部環境の変化 ・為替の変動によって、ハワイ州高校生の参加者に影響がでる事がある。 （参考）H24：21名　H25：12名　H26：16名　H27：15名　H28：12名　H29：10名
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・（受入）ハワイ州高校生に沖縄の文化や歴史をより理解してもらうため受入プログラムの必要がある。訪問や見学だけでなく、文化体験や語り部による平和学習に通訳をつけるなどプログラムの改善が必要。 ・（派遣）座学だけでなく実地研修を充実させるなど、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。	

４　取組の改善案（Action）

・受け入れについては、首里城見学等の県内研修の際に沖縄の派遣生徒が行う英語でのガイドを新たに始める。
・ハワイ沖縄連合会、委託業者、現地スタッフとの連携強化を図り、受入人数の増加を目指す。
・派遣については、観光産業について事前研修と本研修がさらにつながり、生徒の学びに資するようにする。座学と実地研修の内容の精査も行う。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	芸術文化国際交流(書道)(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)		実施計画記載頁	354
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		20人 派遣人数	→	→	→	→
実施主体	県	高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【098-866-2731】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：グローバルリーダー育成海外短期研修事業（沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	3,858	4,294	3,900	3,720	4,065	4,050	一括交付金（ソフト）	○H30年度： 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施した。 ○R元（H31）年度： 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施予定。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式１（主な取組）

活動指標名	派遣人数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	4,065	順調
活動指標名					H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
活動指標名					H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		

活動概要

書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。
台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と有意義な交流を行った。また、淡江大学中国文学科にて張炳煌教授からデジタル書法の指導を受けた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。台湾での交流で書の文化に対する理解がより深まった。
外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために英語力を向上させようとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。
他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ②語学研修の内容の充実に努める。 ③事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。 ④交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。	①情報共有ができ、事前研修・本研修とも円滑に取り組めた。 ②語学研修を7時間実施し、会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。 ③引率教諭の負担減につながり、各生徒の主体性、積極性及び協調性等の自己評価が高まった。 ④ゆとりある日程にしたことで、現地高校生とのランチ交流も実現し、昨年より交流する時間が増えた。

様式１（主な取組）

３　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。 ・交流の際に必要となる語学力が十分でない。	〇外部環境の変化 ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。 ・現地交流校との受入日程調整が必要となる。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・本研修をより深めるために、事前研修の内容について更に吟味する必要がある。また、成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。 ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。 ・事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。	

４　取組の改善案（Action）

・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げると共に語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。

・ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりし、目的意識や達成感の高揚に努める。

・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施 策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	―
主な取組	芸術文化国際交流（グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）		実施計画記載頁	354
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
本県の高校生をドイツ等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		54人 派遣人数				→
実施主体	県	高校生を海外へ派遣し、文化交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【098-866-2731】					

2 取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　（単位：千円）

予算事業名：グローバルリーダー育成海外短期研修事業（沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム）

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	22,757	21,294	24,383	25,927	25,275	31,221	一括交付金（ソフト）	○H30年度：「音楽」、「美術・工芸」、「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をそれぞれドイツ、台湾、アメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施した。 ○R元（H31）年度：「音楽」、「美術・工芸」の芸術分野で活躍する高校生をドイツへ、「郷土芸能」をアメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施予定。

予算事業名：―

主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	R元（H31）年度 当初予算額	R元（H31）年度 主な財源	平成30年度活動内容と令和元年度（平成31年度）の活動計画
		―	―	―	―	―	―		○H30年度： ○R元（H31）年度：

様式１（主な取組）

活動指標名	派遣人数				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	60人	59人	60人	54人	50人	54人	100.0%	25,275	順調
活動指標名					H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
活動指標名					H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		

活動概要

音楽、美術・工芸、郷土芸能分野で活躍する高校生をドイツ、台湾、ハワイそれぞれへ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画どおり50人を派遣した。

３か国とも現地高校と交流を行った。また、各分野とも現地の一流の芸術家または大学教授から個別で実技指導を受けた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

高校生をH30は50名3カ国に派遣した。それぞれの国での交流で芸術文化に対する理解がより深まった。外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために、英語力を向上させようとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。

合同成果報告会で他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ②語学研修の内容の充実に努める。 ③各分野におけるより効果的で治安のよい派遣先を検討する。 ④各分野の事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。 ⑤交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。	①情報共有ができ、事前研修・本研修とも円滑に取り組めた。 ②語学研修を7時間実施し、会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。 ③派遣先である台湾、ドイツ、ハワイとも治安もよく、友好的であった。 ④引率教諭の負担減につながり、各生徒の主体性、積極性及び協調性等の自己評価が高まった。 ⑤ゆとりある日程にしたことで、現地高校生とのランチ交流も実現し、昨年より交流する時間が増えた。

様式１（主な取組）

3　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部要因の変化）	
〇内部要因 ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。 ・交流の際に必要となる語学力が十分でない。 ・実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流校との連携を行う。	〇外部環境の変化 ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。 ・特にヨーロッパ派遣は移動時間が20時間、そして時差が8時間と大きく、時差ぼけで体調を崩す生徒がでる。 ・受け入れ現地高校の行事の時期、台風が襲来しやすい時期、インフルエンザ流行時期や学校行事の時期等を考えて、本研修の日程を組む必要がある。

(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）
・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。 ・事前に受入側の現地高校等と日程調整を行う。 ・本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。 ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。

4　取組の改善案（Action）

・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げる。

・語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。

・ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりし、目的意識や達成感の高揚に努める。

・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。